

バカな奴がいないと。

地元に戻ったけれど…

私は住田町で生まれ、地元の高校から東京のデザイン専門学校に進学しました。卒業後は、東京でテーマパーク・リゾート開発事業などに携わる仕事をしました。世の中はちょうどバブルのまっただ中。仕事も遊びも全力で楽しんだ20代前半でしたが、長男だったこともあり、家業の塗装業を継ぐためUターンしました。

こうして地元に戻ったものの、しばらくは心は東京に置いてきたような日々が続きました。東京での友人との時間や給料、仕事のやりがいなど…、今の生活と比較し「東京にあって地元にはないもの」ばかりを気にして過ごしていたと思います。ようやく地元を据えることを決心したのは、結婚して、その後、長女が生まれた頃でした。家族を持って、ふるさとで暮らす良さを感じ始めていました。

ケセンロックフェスティバル (KESEN ROCK FESTIVAL: KEEL) YGCHK

そして、ケセンロックフェスティバル（以下KRF）の前身である「大船渡ロックフェスティバル」の実行委員会から住田開催の協力要請があり、運営に関わったことが、その後につながる大きな転機になりました。

大船渡ロックフェスは平成20年7月、大船渡青年会議所創立40周年記念事業として大船渡市で開催されました。周辺地域は当時から、人口減少や若者の流出といった課題を抱えていました。「この状況をなんとかしたい」という意識を共有している同世代が「打開につながる一手になるように」と考えた手づくりのイベントです。出演アーティストも趣旨に賛同してくれ、「こういう地元のための手作りのイベントは続けたほうがいい」と、翌年からKRFとして歩み始めました。

KRFは、大船渡市、陸前高田市、住田町

の気仙地区の有志で実行委を組織し、住田町の種山ヶ原イベント広場で開催しています。来年は10回目の節目の年を迎えます。KRFに込めた「地元を盛り上げたい」「自分たちが育ち、暮らしているふるさとを誇れる場所にしたい」という願いは、立ち上げ当初から変わっていません。

東日本大震災を機に…

平成23年3月11日の東日本大震災により、大船渡市や陸前高田市は大きな被害を受けました。KRFはその年の開催を見送りましたが、これまでの出演者や音楽関係者が物資を届けてくれたり、支援活動に駆け付けてくれたりと、温かい志をたくさん寄せてくれました。住田町は津波の直接的な被害はありませんでしたが、隣接する市町村の後方支援基地として、県内外から多くの支援者が訪れるようになり、県内外から多くの被災地ではないにも関わらず、住田町を気にかけて、支援の



一般社団法人SUMICA
(住田町)
代表理事

村上 健也
(有限会社村健塗装 代表取締役社長)
(KESEN ROCK FESTIVAL 実行委員長)

度に足を運んでくれる人も増えてきました。そして私は、支援者の方々と関わる中で、次第に「私自身が地域のために何ができるのか」を考えるようになりました。いずれ震災から時間がたてば支援という枠の中の関係は薄くなっていきます。きっかけは支援活動だったとしても、そこから新たに生まれた町との縁を、どうにか未来の子どもたちに残していきたい。その思いが、まちづくり団体の設立へと向かう原動力になりました。

「SUMICA」の設立

その後、震災後に生まれた交流の中から、U・Iターンで住田町に移住する人が少しずつ増えてきました。私が代表を務める住田町



種山ヶ原でのケセンロックフェスティバルの様子



まちや世田米駅

のまちづくり団体「一般社団法人SUMICA」は、私を含め震災前にUターンした3人と震災後に東京からIターンした2人の、20、40代の5人で立ち上げました。県内外に住田町の魅力を発信し、町のにぎわい創出や交流人口の増加を目指した事業を展開しています。平成28年4月からは、町の指定を受け、住田町世田米にある住民交流拠点施設「まちや世田米駅」の管理・運営を担っています。「まちや」には、交流スペースやオープンテラス、土蔵を改修したギャラリーなどを備えています。子どもから高齢者、地域の人から外の人まで幅広い世代の皆さんが利用して下さっています。なかでも、地産食材を使ったレストラン「Kessse（ケラッセ）」は、仮設住宅での支援をきっかけに東京から住田町にIター

ンした腕利きのシェフの料理が評判を呼んでおり、町外からの来店者も増えています。

自信を持って自慢できる町に

地元に戻ってきたばかりの頃、とある居酒屋での出来事でした。帰省中の上京した若者が、楽しそうに都会の話や披露する輪の中で、地元の若者がじっと聞き役に回っている姿を見て悲しく思ったことがあります。私自身もかつては、東京と比べて「ふるさとにないところ」ばかりに目を向けていた一人です。しかし、音楽や復興支援など、さまざまな分野の方々と関わるなかで、「地元の若者が自慢できる町にしたい」として「戻りたいと思う町にしたい」という思いを強くし、そのための活動を続けています。KRFやSUMICAでの取り組みも、根幹にある気持ちは同じです。

地方創生のキーワードに「よそ者」「若者」、そして熱意のある地元の「ばか者」の三者がよく挙げられます。SUMICAは、その三者に当てはまる5人が巡り合って、立ち上げることができた団体です。支えてくださる町内外のみなさんに感謝し、少しでも多くのにぎわいをつくっていきけるよう、これからも努めたいと思っています。そして、その三者でいえば、地元の魅力を磨き上げることばかり考えている私は「ばか者」の一人でしょう。そんな私でも、自慢できる町づくりに一役買うことができると信じて、これからも頑張っていきます。